

花壇づくりで地域と交流

今年開校の相生学院尾道校が

4月に開校した東御所町、広域通信制・単位制高校、相生学院高校尾道校(田坂利明校長)は入居している本四ビル前庭の花壇に季節の花を植え、行き交う人たちの目を楽しませたり、地域の人たち



との交流の場にもなり、花を栽培管理する生徒たちにも大きな励みになっている。広告塔も設置されている国道に面した細長い花壇27㎡を今年5月の連休明けに生徒や教諭らが土を耕し牛糞や堆肥を入れ、土壌づくりをした後、市緑化推進委員会から寄贈を受けたマリーゴールド

ド、ポーチユラカ、サルビアの苗木各1000本ずつ植えていった。その後、毎朝、4、5人の生徒が花に水やり、草を取ったり、時には堆肥をやったりと栽培管理に励んでいる。生徒たちが毎日、花づくりに励んでいるのをみて、毎朝、散歩している地域のお年寄りらや通勤の

中年の女性らが「毎日、お疲れさん、きれいな花が咲き、楽しみにしています」「ありがとう、がんばってね」など次々にねぎらいの言葉がかけられるようになった。

なかには地域の人たちと顔見知りになり、親しく交流している生徒もいる。

ガーデニングに取り組んでいる生徒も「はじめは固い土をほり大変でしたが、花を育てるのが楽しみになり、地域のみなさんに声をかけていただく励みになります」と嬉しそうだった。

同校ではガーデニングのほか、三原市のたんぼで米づくり体験や綿の栽培と野外体験を通して生徒を元気にし、生きる力を身につけさせている。

同校は週4日コース、週1日コース、自宅での通信制コースがあり、地元尾道はもとより神戸や広島などから現在、生徒は42人。スタッフは田坂校長ら5人。

申し込み、問い合わせは同校(08448・29・911)まで。